

弁護団はたった2人の弁護士

親たちが“わが子の代理人”となり裁判史上、画期的な判決に

なぜわが子が学校で最期を
迎えたのか



©2022 PAO NETWORK INC.

フィルム上映会

生きる

大川小学校 津波裁判を闘った人たち

2011年3月11日に起こった東日本大震災で、宮城県石巻市の大川小学校は津波にのまれ、全校児童の7割に相当する74人の児童（うち4人は未だ行方不明）と10人の教職員が亡くなった。地震発生から津波が学校に到達するまで約51分。この震災で大川小学校は唯一多数の犠牲者を出した。

ドキュメンタリー映画の魅力

vol.3

共催

東工大リベラルアーツ研究教育院

東工大学生ボランティアグループ（東工大VG）

2023年11月9日(木)

18:00～20:30（17:30開場）

予約：不要 参加費：無料

場所：東京工業大学 大岡山キャンパス

Taki Plaza 地下2階 イベントスペース

「あの日、何があったのか」

「事実と理由が知りたい」

親たちの強い思いが、10年にわたる唯一無二の記録に

大川小学校 津波裁判を闘った人たち

生きる



©2022 PAO NETWORK INC.

東工大リベラルアーツ研究教育院の連続企画「ドキュメンタリーの魅力」の第3回目は、防災や復興に関する活動を行っている東工大学生ボランティアグループ（東工大VG）と共催で、『生きる』—大川小学校 津波裁判を闘った人たち—の上映会を行います。

『生きる』は、東日本大震災で多数の犠牲者を出した宮城県石巻市の大川小学校で被災した児童の親たちが10年にわたって戦った「大川小学校 津波裁判」の記録ドキュメンタリー映画です。全校児童の7割に相当する74人の児童（うち4人は未だ行方不明）と10人の教職員が亡くなるという惨事を引き起こした大川小学校。「なぜわが子が学校で最期を迎えたのか？」甚大な犠牲を生むことになった経緯に納得できない遺族たちは、亡くなった児童の代理人として真実を求めて市と県に対して提訴し、その戦いの課程を貴重な映像記録として残しました。

本作品は、膨大な闘いの記録を寺田和弘監督が丁寧に構成・編集し、追加撮影もあわせて後世に残すべき作品として作り上げました。画期的な判決を導き出すに至った軌跡を、ぜひご覧ください。

入場無料
予約不要

- ・本イベントは学内・学外問わず、どなたでもご参加いただけます
- ・当日は直接、Taki Plaza 地下2階 イベントスペースにお越しください

問い合わせ先

リベラルアーツ研究教育院：ilasym@ila.titech.ac.jp

東工大VG：titechvg@outlook.com

学生支援センター未来人材育成部門：siengp@jim.titech.ac.jp

